

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録  
2010年9月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL(03)6379-5521 / FAX(03)6379-5510  
ホームページ http://www.houkon.jp/  
Eメール kondankai@houkon.jp  
編集・橋本 隆

## ラジオの可能性を信じて

塚本茂

この7月から正会員として入会した塚本茂です。1972年入社以来、文化放送に勤務し、現在は60歳定年退職後の嘱託社員という立場です。文化放送では、報道部を皮切りに制作部、編成部などで勤務し、現在は制作部で、平日午後の「大竹まこと」のワイド番組、土曜日午前の団塊世代向けの番組「弘兼憲史の団塊倶楽部」などの番組を担当中です。

どちらかと言えば、情報ワイド系の番組を担当することが多く、私自身も、自らネタを集めて番組化することが好きなタイプです。ギャラクシー賞で言えば、以前、グループホーム「和笑庵」という高齢者施設を取材し、今後の高齢者ケアのありかたなどを取り上げた番組で、ギャラクシー賞ラジオ部門の大賞をいただいたことがあります。取材に要した時間は約1年。マイク1本、録音機1台で取材できるラジオならではの密着取材ができたと思っています。そんなラジオの可能性を信じて、放懇の会員として活動できればと考えています。

## 音で巡る旅。

武田三千代

テレビの制作にいた自分がラジオに飛び込んだのは15年前。音楽や映画にのめりこむうちに気づいたらFMに足を踏み入れていました。「画が無いだけラク」。当時の私のラジオに對する評価も情熱もそんなもの。しかしラジオドラマを書くようになり考えは一変。シーン、登場人物の容姿、台詞、人物の心象風景…これらを表現する手段は言葉と音のみ。これは大変なことになった。初めてラジオの難しさを知り、以来ラジオの深い魅力にとりつかれるようになりました。ラジオは想像の世界。

言葉一つでヒマラヤでもハワイにでも人を連れて行くことができる。天国にも地獄にも人を扇動する力を持つのがラジオの面白さでもあり、残酷さ。作り手や聞き手次第でこれほど振り幅のあるメディアも他にはないでしょう。ラジオ受難の時代とも言われていますが「想像のメディア」である限り、私はまだまだ需要も可能性も開かれていると信じています。なぜなら人間は想像し続ける生き物なのです。

## 新入正会員自己紹介

## 新入正会員自己紹介

## 「文理融合・異種連携」の橋渡し

小見野成一

かれこれ30年前に事務局で働いていた旧姓・清水です。6月に還暦、新聞社の子会社で定年を迎えました。在学中の昭和48年、テレビ東京の前身・東京12チャンネルで、当時の看板番組「私の昭和史」のADとして約半年間放送の現場を体験しました。毎回登場する多彩なゲストから、司会役の三國一朗さんが巧みな話術で引き出す昭和史の貴重な証言が売り物でした。いま話題の「ゲゲゲの女房」の主人公・水木しげるさんもそのお一人。卒業後番組ディレクター・O氏の口利きで放送批評懇談会事務局員に。一旦離職も、3年後に市販化、責任編集制を敷いた『放送批評』の編集担当として復帰、約2年間在職。直近の私の仕事は、経済紙を中心とする紙面企画、経済産業省の中小・ベンチャー支援、産学連携・技術移転のコーディネートでした。こうした経験を活かし、ものづくり企業(理系)と放送を含むメディア(文系)との「文理融合・異種連携」の橋渡し(情報発信の触媒)が私の使命と感じています。

# ギャラクシー賞、今後の課題検討 マイベストTV賞充実へ

## 7月理事会報告

2010年7月26日理事会を開催した。

開会に先立ちTV保存・検索システムの「スパイダー」の機能説明を受けた(詳細後述)。

◇出版編集委員会  
「GALAC」9月号の特集は「これでいいのか!? 放送法改正」。表紙は小池栄子さん。10月号は「ラジオのネット配信」を特集する。表紙は真木よう子さん。11月号では「放送の人材育成」についての特集を組む。

◇選奨事業委員会  
・第47回ギャラクシー賞贈賞式・宴の決算報告。↓了承。  
・宿題となっている選奨の名称問題、選考経過・結果の発表方法の充実に加え、CS、CATV等の扱いなどに関して、各委員長と検

討を9月くらいから開始して結論を出すべきものは出していきたい。

〈テレビ部門〉  
・7月30日に新しいメンバーで月例会を開く。BS、CSの方面にも徐々に力を入れていきたい。  
・新委員候補に松山珠美氏を申請する。↓承認。

〈ラジオ部門〉  
・6月24日に新しい7人の委員も出席して、新旧合同での合評会を終え、その後ラジオの未来・批評の在り方などを語り合う懇親会を開いた。新メンバーによる合評会は、7月28日からの予定である。  
・7月4日に、エフエム東京の会議室で、第11回「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」を開催した。100名近い参加者により活発な意見交換ができた。

さらにエフエム東京の格別な協力でレストラン「JET STR EAM」で懇親会を開き、多くの参加者を得た。

次回の「聴いて、語り合う会」は9月に開催する予定。

〈CM部門〉  
・9月に今年度第1回の合評会を5人の新メンバーを迎え開催する。  
〈報道活動部門〉

・9月開催予定で日程調整中。CS・CATV等の扱い方についても委員と検討していきたい。  
◇企画事業委員会  
・総会時には決定していなかった新委員4名の承認を求め。副委員長・山田健太、委員・永田俊和、藤田高弘、中平良磨(新会員として入会申し込み中)の4氏。↓承認。

・第1回会合は8月4日。シンポジウム部会(シンポジウム企画担当)と出版部会(50周年記念出版を担当)をそれぞれ開催する予定。  
◇マイベストTV賞プロジェクト  
・放懇ホームページの表紙にある入口をわかりやすく改善した。  
・twitterで番組批評や感想

を発信する、mixiでフォーラムを作り交流の場とするなど仕掛けを検討中。

・マイベストTV賞の「幽霊会員」を整理し、同時に以前より懸案だったサーバーのキャパシティアップのため、サーバーの移転を計画中である(2〜3か月をめぐりに)。

・移転を機に投票システムも改良。意欲のある会員には再登録してもらう形で、会員の質を高める。

・大学生会員獲得のためチラシを作る。大学に関係する理事、委員の方々に配布のご協力をお願いしたい。

・マイベストTV賞にスポンサーを付けたらなどの大胆なアイデアも出ている。検討していきたい。

\*坂本理事より、「マイベストTVプロジェクト」の名称及びポジション、プロジェクト・リーダーの立ち位置が不明確であるのもっと明確にし、他の委員会同様に格上げしはとの提案があった。

また、滝野プロジェクト・リーダーからは、現在総務関係の中に予算が計上されているが、その点も検討が必要ではとの意見があった。

↓専務理事より、定款の詳しい調

### ラジオが人に寄り添うように

ペリー 荻野

学生時代にオーディションで中部日本放送の深夜放送のパーソナリティになりました。現在は、雑誌・新聞・ウェブなどでコラムを書いています。また、幼少期より時代劇マニアで「女流時代劇研究家」という肩書きを勝手に名乗り、時代劇の解説や時代小説の書評などもしています。監修した時代劇主題歌CD「ちょんまげ天国」シリーズは、テレビ・ラジオ番組内でも使用していただき、うれしく思っています。

入会のお誘いをいただいたとき、真っ先に浮かんだのは、職人の父の横にあったラジオでした。両親は日々仕事をしながらラジオで聴いたことをよく話題にしていました。今は自宅で静養、リハビリの間、やはりラジオを聴いています。

ラジオが人に寄り添い、あなたからメディアであってほしいと私は心から願っています。そのために自分にできることは何か。考えていくたらしらと思っていますので、どうぞ、よろしく願います。

### 新入正会員自己紹介

査等もあり、以前から検討が必要と考えていたので次回までの預かりとさせてほしいとの発言があり、了承された。

◇総務関係

・役員改正の諸手続き(東京都、法務局、ホームページ)完了の報告があった。

・それに伴い、関係各社に挨拶状・新体制の理事一覧をお送りした。

・事務局から正会員名簿改訂調査のお知らせ発送の許可を求める発言があった。今回から郵送を止め、FAXとメールにて発送する↓了承。

・専務理事より、会員名簿、ホームページの充実のために、正会員は可能な限り情報を公開してほしい旨のお願いがあった。

◇入会の確認

・千葉健吉氏、中平良磨氏。

◇「スパイダー」導入の件

・開会前に説明を受けた「スパイダー」システムの導入に関して事務局長から詳しい説明(導入時期、費用等を含めて)があった。

数人の理事より様々な意見、提案があり、結局、導入を可とするが、金額・導入時期等を再交渉して、結

### 正会員になって

近藤倫章

6月、ギャラクシー賞ラジオ部門の優秀作品の数々を聴くことができました。テレビ番組の力作は、NHK「ザ・ベストテレビ」がまとめて見る機会を与えてくれました。作品からは、今という時代に対峙する制作者達の真摯な姿が、鮮やかに浮かび上がってくるようでした。

一昨年、「TBS闘争」をきっかけに書かれた『お前はただの現在にすぎない』が40年を経て文庫本で復刊されました。ご存知のように、当時まだ新しいメディアであったテレビの可能性を問うた著作です。「表現」とは、「伝える」とは何なのか? 作り手、送り手にとって逃げる訳には

いかな問題が提起されています。私にはまだ、この問いに対する答

えは見つけられていません。番組を見続け聴き続けながら、その番組の作り手と一緒に答えを探して行きたいと思えます。これまで生活の糧を与えてくれたテレビ、ラジオに感謝するとともに、これを機に少しでも恩返しが出来ればと思っています。

### 新入正会員自己紹介

論を出すと言うことで決着。入江理事が再交渉。専務理事が最終判断をすることを決定。

◇大空社「全国テレビドキュメンタリ12010年版」転載許可の件。

昨年も依頼に応じた経緯もあり、特に問題も発しなかったもので、今回も許可するということを了解した。

◇日韓中テレビ制作者フォーラムに派遣の件

・10月中国で行われる大会に放懇関係者を派遣する件で、中島事務局長を派遣したい旨の提案が前専務理事からあった。↓承認。

◇職員採用の件

・専務理事より、事務局機能強化のため新職員を採用したい。ついては理事の皆様へ推薦・紹介をお願いしたい旨、提案あり。採用条件等の説明があった。↓了承。

8月末を目途に受け付け、書類選考、面接等の作業に入る。

◇放送批評懇談会正会員の名刺印刷ルールについて

・放懇会員の名刺作成に関し、様々な会員からの作成要望に対応する際、事務局の作業を円滑に進めるための基準を設けていた(2008年6月)。

### ラジオの元氣回復を応援

石原信和

本年5月末で、34年間勤務したニッポン放送を退職しました。その際、ある会員の方に退職の挨拶状を送ったことがきっかけで、入会させていただきました。ことになりました。

ニッポン放送では、報道部でスタートを切り、その後制作部に移りました。制作部時代は、深夜から早朝まで様々な番組を担当しましたが、いちばんの代表番組といえば「鶴光のオールナイトニッポン」です。魚屋のおっさんという嬉しくないニックネームもいただきました。また、ドラマ制作にもタッチすることができました。

その後、営業促進部等を経て、総務部時代には、株式上場、二度にわたる社屋移転、新社屋建設、さらに仕上げはライブドア事件と、会社激動の時代に身を置いてきました。

受験生の頃に、かじりつくように聴いていた深夜放送から始まったラジオとのつきあいですが、最近あまり元氣のないラジオ界を側面から応援していければと思います。

